

Letter for Members

【コンテンツ】

● 支部学術大会報告	1
● 認定医・専門医筆記試験（全国同時一斉開催）	6
● プロソ'21を開催して	7
● 令和3年度専門医研修会が開催されました	8
● 2021 Award Announcements from the IADR Prosthodontics Group	9
● The 49 th Indian Prosthodontic Society (IPS) National Conferenceの報告	10
● 編集委員会からのお知らせ	11
● 学会HP,メルマガ, Letter for members, フェイスブック, JPR通信の紹介	12

支部学術大会報告

● 東北・北海道支部学術大会

令和3年度東北・北海道支部学術大会が、令和3年10月17日（日）に開催されました。当初は北海道大学学術交流会館での対面開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため残念ながらweb開催となりました。特別講演として本学会の元理事長、日本歯科専門医機構専門医制度整備委員会委員長の市川哲雄先生（徳島大）に「補綴歯科専門医制度を俯瞰するー歯科専門医制度とその意義ー」のタイトルでご講演をいただきました。また、シンポジウムとして「クラウン・ブリッジ補綴に関する模型実習ならびに臨床実習の現状と課題」を開催し、コロナ禍での実習形態も含めて現状と問題点について支部所属の5大学の実習担当者による討論がなされました。一般口演については5名の発表がなされ、web上ではありましたが活発な質疑応答が行われました。e-posterについては9題の発表があり、メールを使

用した質疑応答を行いました。また、支部学術大会前日の10月16日に専門医ケースプレゼンテーションが対面形式で開催され、2名の会員が発表されました。支部学術大会終了後に、「知っておきたい！保険収載されている補綴歯科の医療技術」というテーマで生涯学習公開セミナーを開催し、CAD/CAM冠の適応拡大について田上直美先生（長崎大）に、有床義歯咀嚼機能検査について坂口 究先生（北海道大）にご講演をいただきました。web開催ではありましたが、シンポジウムや一般口演では活発な討論が行われ充実した支部学術大会となりました。ご参加、ご支援、ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

（北海道大 横山敦郎）

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_614.pdf



シンポジウムの様子



専門医ケースプレゼンテーションの様子

● 関越支部学術大会

令和3年11月7日、新潟医療人育成センターを会場に学術大会、専門医ケースプレゼンテーション並びに生涯学習公開セミナー「超高齢社会における歯科治療を再考する」を開催いたしました。やる前からわかっていたことではありますが、「手作りハイブリッド」で学会を開催するのはやはりタイヘンでした。県内者のみに限定した会場には46人が参集され、演者のカメラとマイク、座長のカメラとマイク、会場の質問者のマイク、リモートのホストPCを繋ぐケーブルが入り乱れておりましたが、何とか大きなトラブルなく終了出来たことを感謝しております。

今回は学術大会の口演発表が6題（うち2題は動画配信し、質疑応答はリモートライブ）、研修医ケースプレゼンテーションが3題、生涯学習公開セミナーが2講演でした。関越支部は日本一小さい支部ですから、いつもこれくらいの規模で、総会と市民フォーラムを加えても一日で収まってしまうのです。しかし、今回ハイブリッドでやってみて嬉しかったのは、ささやかながら会場でディスカッションが出来たこと、そして他支部から52名もの参加があり、最終的に144名と例年の倍の参加者になったことでした。リモート

でご参加いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。接続の問題などでご不自由をおかけしたかもわかりませんが、何卒ご容赦下さい。

どうか今年は新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、通常開催で学術大会等が開催できることを願ってやみません。
(新潟大 小野高裕)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_606.pdf



ハイブリッドで行われた生涯学習公開セミナー（上田一彦座長、渡邊文彦講師、小野高裕講師）



会場の新潟医療人育成センター（新潟市）

● 西関東・東関東支部合同学術大会

令和3年度西関東・東関東支部合同学術大会を令和4年1月9日に鶴見大学と明海大学の両校が主幹校として鶴見大学にてWeb、ならびに専門医ケースプレゼンテーションの現地開催を行いました。

学術大会は、メインテーマとして「歯科補綴デジタルツインズ」ーサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の融合ーと題してデジタル分野において著名な先生方にご講演をいただきました。学術大会は日本補綴歯科学会理事長 馬場一美先生の「補綴歯科治療の進化ーデジタル化の本当のメリットー」と題した理事長講演に始まり、メインシンポジウムとして「铸造冠とCAD/CAM冠の咬合」を徳島大学名誉教授の坂東永一先生、シンポジウムとして「医用工学ー咀嚼・嚥下機能における顎口腔関連筋群の計算解剖学的解析ー」を奈良先端科学技術大学院大学の竹義人先生、武蔵野赤十字病院の道脇幸博先生、生涯学習セミナーとして「Digital dentistry 時代における「顎運動」の必要性」について鶴見大学の重本修何先生、医療法人幸加会スギモト歯科医院の杉元敬弘先生にご講演をいただきました。一般講演としてはすべてeポスター発表形式として14演題、専門医ケース

プレゼンテーションとして11題のご発表をいただきました。

Web開催ではありましたがたくさんの学会員の先生方にご参加いただき心より感謝申し上げます。また学会運営にご協力いただきました関係各位に深謝いたします。
(鶴見大 小川 匠)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_673.pdf



サテライト会場風景



専門医ケースプレゼンテーション

●東京支部学術大会

令和3年度東京支部総会・第25回学術大会が令和3年12月5日(日)に日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 五味治徳大会長のもと、オンラインで開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度より多くの学術大会で口頭発表を行う機会が失われていることから、本学術大会では、一般演題はすべて口頭発表で行うことといたしました。20演題の発表が行われ、東京支部各大学選考委員の投票により3演題の優秀発表賞が選出されました。午後の総会を経て、学術大会終了後には、生涯学習公開セミナーが行われました。本セミナーは、「保険医療における歯冠修復処置を安全に行うために知っておきたいこと」をテーマとし、日本大学小泉寛恭先生にはチタン冠について、日本歯科大学新谷明一先生には前歯CAD/CAMレジン冠についてご講演いただきました。日常臨床ですぐに役立つ知識を確認でき、有意義な学びの多いセミナーとなりました。

また、専門医ケースプレゼンテーションについては、申請者多数のため当日開催が困難となり、12月19日(日)に対面形式での開催となりました。

担当校として初めてのオンライン開催となり、慣れ

ないことも多くありましたが、有意義な大会となるよう準備、当日の進行に努め、無事終了することができました。

最後になりましたが、日本全国よりご参加くださいました皆様(登録者総数322名)ならびに関係各所の皆様の多大なるご協力にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。(日歯大 八田みのり)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_655.pdf

●東海支部学術大会

令和3年度東海支部学術大会が令和3年10月17日(日)に松本歯科大学歯学部歯科補綴学講座 樋口大輔が大会長として開催されました。今回は完全Web開催としてすべてのプログラムをオンライン上にて行ったことが特徴です。一般口演は8題の発表があり、専門医ケースプレゼンテーションは2題となりました。オンラインによる専門医ケースプレゼンテーションは初めての試みであることから、本学会の本木克彦理事(修練医・認定医・専門医認定委員会委員長)と事務局の全面的なご支援をいただいて実施されました。特別講演では、木本 統先生(愛院大)に「臨床研究から得られた軟質リライン材のエビデンス」と題して、軟質リライン材の基礎から臨床までご講演いただきました。生涯学習公開セミナーでは、熊野弘一先生(愛院大)と岩堀正俊先生(朝日大)に令和3年9月に保険掲載された磁性アタッチメントについて、その背景や歴史、ガイドライン、臨床上での留意点についてご講演いただきました。また市民フォーラムには昭和大学名誉教授の島村忠勝先生をお招きし、「カテキン～その新事実と新型コロナウイルス感染症～」をテーマにご講演いただきました。こちらの市民フォー

ラムも窪木拓男副理事長のご支援をいただきながらコロナ禍における初めてのオンデマンドとして配信し、230名の方に視聴いただきました。今回の学術大会をWeb開催とした結果、北海道から九州まで日本全国から参加者を集めることができました。そして保険掲載された磁性アタッチメントの講演などもあったことなどから近隣歯科医師会からのお問い合わせも多くいただきました。今回は学会としていくつかの初めての試みを行いました。無事終えることができましたことを報告申し上げます。ご協力いただいた先生方、協賛いただいた企業様、ご後援をいただいた団体様に改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。

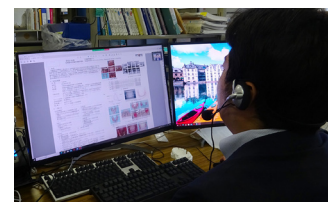
(松歯大 樋口大輔)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_605.pdf



ライブ感のあるオンラインでの開催風景(生涯学習公開セミナー)



学会史上初めてのオンラインによる専門医プレゼンテーション

●関西支部学術大会

令和3年12月12日(日)、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 池邊一典大会長のもと、令和3年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部総会・学術大会が開催されました。

今回の学術大会では、補綴歯科治療と基礎研究との関連について、園山 亘先生(関西支部)に、「補綴臨床と再生医療の接点」と題した教育講演を通じて、わかりやすく解説いただきました。また、歯科補綴治療と歯科技工士との関わりに焦点を当て、「歯科技工士の役割と連携の重要性」と題したセッションを開催し、伊藤賢志先生(大阪府)、内藤 徹先生(大歯大)、常藤洋平先生(大阪大)の3名の歯科技工士にご講演いただきました。さらに、「様々な欠損形態に対するアプローチを考える—少数歯欠損(前歯部欠損を例に)」と題した公開症例検討会を開催しました。畔堂佑樹先生(大阪大)、覺道昌樹先生(大歯大)、谷岡教相先生(大歯大)にご発表・ご討議いただきました。



公開症例検討会でのディスカッション



総会で発言する池邊一典大会長



専門医ケースプレゼンテーション

このほかに、一般口演13題、専門医ケースプレゼンテーション6題の発表がありました。

併催の生涯学習公開セミナーは、「最近保険収載された歯科補綴治療法」をテーマとして、末瀬一彦先生(関西支部)からは「前歯部CAD/CAM冠 成功への秘訣」、権田知也先生(大阪大)からは「磁性アタッチメントの基礎と臨床」と題したご講演をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、支部学術大会は前回に続きWeb開催となりましたが、約200名の方々に参加をいただきました。ご参加いただいた先生方ならびに、開催に際し、ご尽力をいただいた関係の方々には心よりお礼申し上げます。

(大阪大 池邊一典)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_687.pdf

●中国・四国支部学術大会

令和3年8月28日(土)に南海放送本町会館(愛媛県松山市)において、愛媛県歯科医師会・東温市歯科医師会副会長の近藤一雄大会長のもと令和3年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会が開催されました。Covid-19の流行による「緊急事態宣言」および「まん延防止等重点措置」の発出により、開催日数を1日とし、すべての企画をWeb開催といたしました。生涯学習公開セミナーは、『歯科補綴の新しい潮流』をテーマに、昭和大学教授の馬場一美理事長から「デジタルテクノロジーによる補綴歯科治療の革新的変化—データベース基盤型補綴治療—」、岡山大学教授の窪木拓男副理事長から『口腔インプラント治療のPartial Extraction Technique』と題し、テクノロジーそしてバイオロジーを基盤とした新しいコンセプトの補綴治療についてご講演いただきました。また、一般口演は7題発表があり、いずれも活発な討論が行われました。この一方で、現地には大会運営者しか来ることができませんでしたので、4題予定されていました専門医ケースプレゼンテーション

については、申請者の所属する県内で利益相反のない審査委員による審査を9月中に行うこととしました。

(中国・四国支部 近藤一雄)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_686.pdf



学術大会開会式



生涯学習公開セミナー座長

●九州支部学術大会

令和3年9月19日に、長崎大学生命医科学域（歯学系）口腔インプラント学分野教授，澤瀬 隆大会長，ならびに、同講座准教授，黒嶋伸一郎実行委員会のもと，令和3年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会がWeb開催されました。本支部学術大会は開催直前まで対面方式を計画していましたが，最終的には新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWeb開催となりました。しかしながら学術コンテンツに変更はなく，九州5大学からの招待講演と12題のe-ポスターに加え，2演題の特別講演が行われました。特別講演では，長年，本学会と九州支部を牽引していただきました九州大学の古谷野 潔先生に，「これからの補綴歯科を考えるうえでのいくつかの論点」と題して，また，新たに九州大学教授に就任されました鮎川保則先生に，「補綴学教室におけるベーシックリサーチ」と題してご講演をいただくことができました。



特別講演1 座長の鱈見進一先生（左）と講師である古谷野 潔先生（右）

学会終了後には，「基礎から学ぶ審美補綴～安定した予後を与えるために必要なこと～」をテーマに掲げた生涯学習公開セミナーが併催され，西関東支部の日高豊彦先生には，「修復治療における複雑化の回避とマネジメント」と題して，また，関西支部の中田光太郎先生には，「審美補綴修復前処置としての軟組織マネジメント」と題してご講演をしていただきました。

学会開催中は九州5大学の会員の先生方だけでなく，Web開催の利点を生かし，九州以外の大学の先生方やご開業の先生方など，多くの先生方にご参加とご発表いただく機会を得ることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。（長崎大 澤瀬 隆）

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_593.pdf



特別講演2 座長の細川隆司先生（左）と講師である鮎川保則先生（右）

認定医・専門医筆記試験全国同時一斉開催

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、第 130 回学術大会も昨年に引き続き Web 開催となりました。それに伴い、令和 3 年度の認定医・専門医試験も前年度に引き続き 9 支部に分散した形で実施することが決まりました。まず、日程調整を最初に行うこととなり、前年度の反省を踏まえ季節的に移動に支障が出る冬季を避けて、夏から秋で各支部と調整させていただきました。その結果、2021 年 10 月 31 日(日) 13 時からの実施となりました。会場は、前年度の 22 会場の実績に基づきスリム化を図り、15 会場としました。

この試験は同日、同時刻に一斉スタートする試験であるため、各会場の受験者が同一条件の下で受験できること、会場間で基準化が採れることが最優先になります。そのため、日程の決定と会場の配置が決まったのちに、前年度の検証と改善を踏まえ、実施要項のブラッシュアップを行いました。主に、各会場との連絡方法、当日の試験監督の人数調整と手当て等の見直しを行い、実施に漕ぎ着けた次第です。現場レベルで重要なのは、試験監督の配置です。同一会場で複数の講座に所属する受験者や勤務医の方々などが受験することを踏まえ、多くの試験監督の先生に、休日にもかかわらずお務めいただきました。大変にありがたく思っております。

試験当日は不測の事態に備えるため、事務局に委員長・幹事・事務局で控え、緊張感漂う中 13 時の試験開始を待ちました。試験開始後は粛々と経過し試験終了時刻の 13 時 50 分に各会場から終了報告を受けました。終了報告は電話での報告で前年度に少々苦勞し

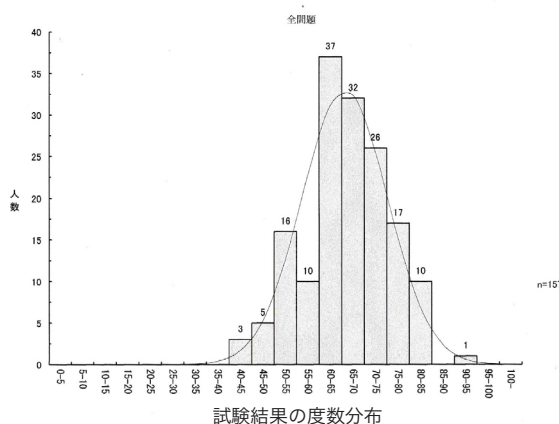
た経験から、メールによる報告に変更しスムーズにすべての会場から短時間で報告を受け、無事試験を終了することができました。今年度の受験者は昨年度の 280 名には及ばないものの、例年より多い 157 名となりました。昨年に引き続き、分散型の利点である学術大会との日程の折り合いや地理的条件で受験を見送っていた会員の受験機会になったのではと思っているところです。

本学会では、一般社団法人日本歯科専門医機構による認証を目指した新専門医制度の運用が 2022 年 4 月から開始されました。今回実施された認定医・専門医試験は、これから新制度で補綴歯科専門医の取得を目指す会員にも必須の試験となります。受験者に良問を解いていただき、受験者の実力を妥当に判定できる試験でなければなりません。今回の試験結果を別に示しますが、度数分布は正規性もあり、平均点は 65.7 点(標準偏差 9.5)という結果になり、概ね妥当な試験であったと認識しています。令和 4 年度の試験に向け、修練医・認定医・専門医制度委員会では、引き続き問題のブラッシュアップを行い、試験の充実を図っている所です。

令和 4 年度は、第 131 回学術大会時に実施予定となっておりますが、社会状況の変化によっては、支部長の先生にはご協力をいただくことになるかと思えます。その節は、ご理解を賜り、引き続き補綴歯科学会の認定医・専門医制度の充実にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(修練医・認定医・専門医制度委員会委員長

河相安彦)



プロソ'21を開催して

去る2021年11月14日(日)に、(公社)日本補綴歯科学会第6回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'21」をWEB(ライブ配信+オンデマンド配信:11月15日~11月21日)にて開催させていただきました。当初は鶴見大学記念ホールで参集型の研鑽会とする予定でしたが、COVID-19の感染拡大防止のため、やむなくオンライン開催に変更となりました。

今回は、補綴治療の中でも全顎に及ぶ大規模な補綴処置が必要なフルマウスリコンストラクションにフォーカスを当て、テーマを「The 咬合再構成」とさせていただきました。シンポジウム1では、座長に山下秀一郎先生、荻野洋一郎先生をお迎えし、和田淳一郎先生、田坂彰規先生、篠宮摩弥子先生といった若手の先生方にエビデンスと臨床例を提示していただきました。シンポジウム2では、座長に疋田一洋先生、樋口大輔先生をお迎えし、武田孝之先生と岩田光弘先生にインプラントを用いた咬合再構成の考え方と実際について、臨床経過をもとに非常に示唆に富んだお話をいただきました。シンポジウム3では秋葉陽介先生、猪越正直先生に座長をお願いし、杉田龍士郎先生、荒井良明先生からインプラントによる無歯顎補綴治療、顎関節とフルマウスリコンストラクションについて熱のこもったご講演をいただきました。シンポジウム4では座長に河相安彦先生、田中譲治先生をお迎えし、谷田部 優先生、上田秀朗先生から咬合崩壊への対応および予知性の高い咬合再構成と良好な予

後獲得に向けた計画と実践について、長期の経過観察から非常に示唆のあるお話をいただきました。

フルマウスリコンストラクションはある意味、補綴医にとって非常にやり甲斐のある反面、大きな責任を伴う治療であるとも言えます。フルマウスリコンストラクションを成功に導くためには、局所の所見だけでなく、疾患の進行程度や組織の抵抗力、生活習慣、審美的要求など、多様な条件を総合し、合目的に治療計画を立案しなければなりません。また術式や装置、使用材料の選択など、さまざまな要因がその後の経過に大きく影響することから、十分な知識と技術、補綴の洞察力が必要となります。今回のプロソでは、補綴歯科専門医ならびにこれからその取得を目指す会員が、より完成度の高いフルマウスリコンストラクションを行うための理論と術式について、大いに研鑽を積むことができたのではないのでしょうか。補綴治療の醍醐味とも言える咬合再構成をテーマにした本研鑽会により、補綴治療の魅力を再発見し、明日からの臨床にお役立ていただけることを期待いたします。

今回はオンライン配信となりましたが、この場をお借りして本研鑽会が無事に終了しましたことをご報告するとともに、参加者ならびに開催にあたりご尽力いただきました実行委員会と関係各位に厚く御礼申し上げます。(大会長 大久保力廣)



シンポジウム1でのディスカッション風景(座長:山下秀一郎先生, 荻野洋一郎先生, 講師:和田淳一郎先生, 田坂彰規先生, 篠宮摩弥子先生)



シンポジウム4でのディスカッション風景(座長:河相安彦先生, 田中譲治先生, 講師:谷田部 優先生, 上田秀朗先生)

令和3年度専門医研修会が開催されました

令和3年度の専門医研修会は、従来行われていた支部単位の専門医研修会から、修練医・認定医・専門医制度委員会（以下、制度委員会）が所掌し、各支部から研修会のテーマに沿った講師を推薦いただき、委員会で選定し申し合わせに沿ってオンラインで4回実施されました。

第1回は2021年11月21日（日）14:00から2時間開催されました。テーマは「一般社団法人日本歯科専門医機構の認証による新専門医制度について」と題し、座長を馬場一美理事長にお務めいただきました。演題は「専門医機構認定の新制度について（河相：制度委員会）」および「新制度の新規および更新認定について（木本克彦先生：修練医・認定医・専門医認定委員会）」で、本新制度の専門医制度についての中間報告が発信されました。参加者からは多くのご質問をいただき、関心の高さが窺われました。

第2回は2021年12月19日（日）14:00から2時間、テーマは「歯列部分欠損・無歯顎による咬合咀嚼障害の補綴治療」で、座長を大久保力廣先生（西関東支部）と若林則幸先生（制度委員会）にお務めいただきました。保険適応になった磁性アタッチメントの基礎と臨床について曾根峰世先生（東関東支部）に「一基礎編」、熊野弘一先生（東海支部）に「一臨床編」としてご解説いただきました。まさにタイムリーな内容で、多彩なご質問を多くいただきました。

第3回は2022年1月23日（日）14:00から2時間、「顎機能障害の補綴治療」をテーマに築山能大先生（九州支部）と原哲也先生（制度委員会）にお務めいただきました。講演は「補綴歯科のエキスパートが診る顎関節症とブラキシズム」と題して山口泰彦先生（北海道支部）と「咬合違和感を発症させない補綴治療専門医としての基本的姿勢と咬合違和感発症に関連する最新の知見」について玉置勝司先生（西関東支部）よりお話いただきました。日々の臨床で遭遇する、かつ、

専門性の高い症例に対して診療技能はもとより、患者へのアプローチについても触れていただきました。

第4回は2022年2月27日（日）14:00から2時間、「在宅の摂食嚥下リハビリテーション」をテーマに小野野高裕先生（関越支部）と高橋一也先生（制度委員会）に座長をお務めいただきました。演者の戸原玄先生（東京支部）には「在宅の摂食嚥下リハビリテーション」と題して、臨床と多様な研究、今後の方向性についても触れていただきました。吉川峰加先生（中国・四国支部）には「摂食嚥下障害に対する補綴学的アプローチ」について先生が取り組んでいる多職種のチームアプローチや補綴装置によるアプローチについて解説いただきました。

研修会後のアンケートでは「Web形式の研修会について」は90%以上の方が好ましいと回答し、「実施日と時間」は日曜日の10時または14時の開始が望ましいと回答していることがわかりました。「参加登録について」は多くの参加者が問題なく行われたと回答していました。「講演の内容について」はすべての回で「満足」「ほぼ満足」を合わせて90%を超えていました。記述式では「Web研修会は参加しやすい」「子供がいるので助かる」「コロナに関わらずWeb開催について継続してもらいたい」など多くの前向きのご意見を頂戴しました。

今年度は、事業開始が遅れて11月から2月にかけて4回の研修会とタイトな日程で行われました。令和4年度は概ね3カ月に1度の間隔で行う予定です。ぜひ受講され、専門医として知識や技能の向上に役立てていただきたいと思います。また専門医を目指す先生には幅広いテーマを用意しています。臨床に還元できる内容となるよう今後も制度委員会では心がけて参ります。引き続き皆様のご参加をお待ちしております。

（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長 河相安彦）



第2回



第3回



第4回

2021 Award Announcements from the IADR Prosthodontics Group

2019年より International Association for Dental Research (IADR) 補綴学グループのディレクターを務めております金澤 学と申します。IADRは全世界に1万人以上の個人会員を擁する歯科では最大規模の学術団体です。IADRの使命は、世界の健康と幸福のために、歯科、口腔、顎顔面領域の研究を促進し、世界に口腔と全身の健康を提供することです。そして、IADRは世界中のさまざまな科学団体とのネットワークを持ち、その学会は歯科の分野では世界最大規模であることが知られています。

この補綴学グループは、Arthur R. Frechette Research Awards, Pre-Prosthetic Regenerative Science (PRS) Award for Young Investigators, そして、Neal Garrett Clinical Research Prize の3つの賞を有しています。Arthur R. Frechette Research Awards は、1968年から1977年までIADRの事務局長を務めたArthur R. Frechetteの業績を称えるもので、材料科学または生体工学を中心とした研究に対する賞と、生体工学および組織工学を中心とした研究に対する賞で構成されています。この賞は、IADRの補綴学グループが主催し、Whip Mix Corporationが後援しています。

PRS Award for Young Investigators (PPRS) は、組織工学、骨・歯・軟組織再生科学、移植材料研究、顎顔面再建生物学・生理学、インプラント生物学研究などを含みますが、これに限定しない補綴または補綴関連の再生科学の多岐にわたる分野の若手研究者によるオリジナル研究を表彰するものです。この賞は、IADR Prosthodontics Groupと日本補綴歯科学会のサポートにより提供されています。演題は補綴グループセッションに提出され、最終選考に残った演題に関しては、5ページのextended abstractを追加提出し、競われます。表彰はIADR General Sessionの中で行われる同グループのビジネスミーティング内で行われ、以下の賞が授与されます。

第1位 1,000ドル

第2位 500ドル

詳しくは <https://www.iadr.org/IADR/Awards/Scientific-Group-Awards/PROS/Young-Investigators> をご覧ください。

そして、Neal Garrett Clinical Research Prize は、臨床に重点を置き、患者を中心とした独創的な研究を表彰する賞です。この賞は、Neal Garrettの生涯の仕

事を評価し、患者さんの治療への努力に見合うもので、Dr. Sreenivas KokaとPremium Dental Editing LLCが支援しています。

それでは、2021年の受賞者を報告させていただきます。

【Pre-prosthetic Regenerative Science (PRS) Award 2021 Recipients】

第1位 井上真愛弥先生 (長崎大, 日本)

“Effects of alendronate/dexamethasone combination therapy on wound healing around implants in rat maxillae”

第2位 Dr. Ola Redha (Eastman Dental Institute, UCL, UK)

“Compromised dental cells viability following teeth-whitening exposure”

【The Arthur R. Frechette Research Awards Recipients】

・Dr. Mostafa Alhamad (University of Illinois at Chicago College of Dentistry, USA)

“Ti-ions and/or Particles in Saliva Potentially Aggravate Dental Implant Corrosion”

・Dr Xinchao Miao (東北大, 日本)

“Stepwise Ameloblast Induction from Induced Pluripotent Stem Cells”.

【The Neal Garrett Clinical Research Prize award Recipients】

Dr. Mariam Margvelashvili-Malament (Tufts University, USA)

“Incidence of endodontic therapy after complete or partial coverage restorations”

受賞された研究者の皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。また、日本補綴歯科学会会員がこのような名誉ある賞を受賞されたことは、日本補綴歯科学会会員一同、大変うれしく思っております。今後も日本補綴歯科学会が、IADR, Journal of Prosthetic Dentistry (JPD), The International Journal of Prosthodontics (IJP) など権威ある世界の補綴学会との連携を保ちつつ、世界の補綴学研究をリードする学会として発展することを期待します。

(医歯大 金澤 学)

The 49th Indian Prosthodontic Society (IPS) National Conferenceの報告

日本補綴歯科学会と交流提携のあるインド補綴歯科学会 (IPS) が、2021 年 12 月 3 日から 5 日までの会期で 49th IPS National Conference をオンラインで開催いたしました。JPS からは熱田 生先生 (九州大) と Swarnalakshmi Raman 先生 (徳島大) が Keynote Speaker として選出され、それぞれご講演されました。お二人からは、ご参加・ご発表に関するご感想を写真とともにいただきました。

①熱田 生先生 (九州大)

2021 年 12 月 3 日 (金) ~ 5 日 (日) の 3 日間にわたり、日本補綴歯科学会と交流提携のあるインド補綴歯科学会 (IPS) の学術大会が開催されました。インドへ行ったことがなく、いつか行ってみたいとは思っていましたが、今回は Virtual conference ということで、残念ながらオンラインでの開催となりました。Keynote speaker として 30 分の枠をいただきましたが、事前に録画での発表であり、5 分のディスカッション枠だけがリアルタイムで行われる形式でした。本学会は一般補綴から顎顔面補綴など臨床に直結した内容が多く、英語の苦手な私でも興味をもって楽しく拝聴することができました。大変に有意義な 3 日間であったと思いますが、学会の醍醐味は開催地の風土を肌で感じつつ、普段話せない多方面の先生方とディスカッションすることにあるとも思っています。次の学会では現地開催されることを切に願いつつ、その時には是非に参加させていただければと思います。

② Swarnalakshmi Raman 先生 (徳島大)

The 49th Indian Prosthodontic Society National conference 2021, organized by the Tamil Nadu and Pondicherry IPS from 1st to 5th of December. I was privileged to deliver a keynote lecture on

“Treatment Strategy for Orofacial Pain: Basic Science to Clinical Aspect”. I was able to cover the basic concepts of orofacial pain and the guidelines for effective diagnosis and treatment plan. Also, discussed on further clinical case report and basic research which would aid for day-to-day practice. Due to the current pandemic situation, the event was held virtually as pre-recorded. I take pleasure in mentioning that I received my first opportunity through this event to deliver a keynote speech in a national conference. I am thankful to the members of JPS for this. The session was lively, and the topic was well received by the audience as it was a basic routine clinical practice scenario. Several budding researchers and clinicians who attended the session provided positive feedback. It was organized as a hybrid meeting; it was a very well organized and informative conference. This will always be a great memory for me as I belong from the state which organized the event and to represent from Japan in the IPS is a great honor for me.

お二人とも素晴らしいご発表をなされたようです。大変お疲れ様でした。

今回の IPS 学術大会は第 50 回の記念大会となり、現時点では対面形式で 2022 年 11 月 10 日から 13 日の会期で開催予定となっています (場所は New Delhi)。既に HP での参加登録が可能となっています (<https://50thipsconference.com/>)。その他詳細な情報が分かりましたら、決定次第ご案内する予定です。

(渉外委員会 幹事 黒嶋伸一郎)



49th IPS でご発表されている熱田 生先生



49th IPS でご発表されている Swarnalakshmi Raman 先生

編集委員会からのお知らせ

— 専門医症例のカラー印刷化, 投稿規定の更新 —

今期編集委員会では、「商業誌より読まれる学術誌」をモットーに、幅広い視点からの企画論文やさまざまな臨床報告といった内容の充実を活動方針としております。

その第一歩として、本年4月発行の学会誌より、専門医症例の口腔内写真をすべてカラー印刷することが決定いたしました。今までは、デフォルトはモノクロで、投稿者自身の負担によって、任意でカラー掲載としておりましたが、今回より学会から費用を負担し、カラー化いたします。当たり前ですが、リアルさや情報量が全く違います。ぜひ知識と技術の結晶である補綴歯科治療の成果を、鮮明な症例写真とともにご覧ください。

また、専門医症例の投稿規定や、用字用語正誤表の更新を行いました (https://hotetsu.com/s4_09.html)。今後、学術大会の演題登録や、論文投稿の際には、ぜひ参考にしてください。順次、関連資料の更新を行ってまいります。

英文誌であるJPR誌は最先端の研究がメインであるのに対し、和文誌の日本補綴歯科学会誌は、臨床記事と生涯学習の意味が大きいと考えています。学会員の皆様にとって魅力的な学会誌となるよう、さらなる充実を目指してまいりますので、今後とも忌憚のないご意見とご協力、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

(編集委員会委員長 池邊一典)

【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局 (jpr-edit01@hotetsu.org) まで、メールにてお寄せください。

学会HP, メルマガ, Letter for members, フェイスブック, JPR通信の紹介

1. 学会 HP (毎週木曜日に更新) www.hotetsu.com

この度 HP をリニューアルしました。一般の方に向けたページは、「補綴」を周知するのが目的です。関係者向けは、ある程度長期にわたり必要なデータをいつでも閲覧できるようにすることが目的です。雑誌、抄録、指針などをわかりやすく配置しています。また、英文ページは JPR をメインコンテンツとして改修しました。関係部署と連携してさらに充実させていきます。

2. メールマガジン(隔週金曜日に全会員向けに発行)

全会員へのある程度、速報性の必要な記事を掲載します。学術大会、支部会・関連学会に関する情報です。学会 HP や他へのリンクも載せています。メールアドレスの変更があった場合には速やかにお知らせください。

3. Letter for members (年2回発行:4月と10月)

学術大会・支部会・イベント、国際交流や表彰などの記録を残すのが目的です。

4月号:支部学術大会報告(支部長),海外の学術大会報告(国際渉外)など

10月号:本大会報告,受賞者紹介など
会員からの情報提供をお願いします。

4. フェイスブック(随時)

速報性が求められる情報(メ切間近のイベントなど)を中心に週に数件を発信しています。掲載希望があれば、事務局にお申し出ください。写真などがあると情報発信には効果的です。

ぜひ、FBの学会ページに「いいね!」「フォロー」をしていただき、周りの関係者を巻き込んでください。

<https://www.facebook.com/JapanProsthodonticSociety>

5. JPR 通信(月1回発行)

2022年1月から JPR 編集委員会からのメルマガ『JPR 通信』の配信が始まりました。最新の JPR 論文(オンライン早期公開)など、JPR の情報をいち早くお届けすることを目的としています。皆様の研究や論文執筆の役に立てば幸いです。

広報委員会では、複数の媒体の特性を生かして、最新の正確な情報をわかりやすく皆様にお届けします。情報提供、古い・誤った情報のご指摘、ご意見をよろしくお願いいたします。

(広報委員会幹事 高野智史)

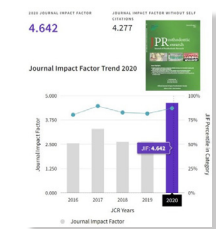


JPR最新のインパクトファクターは4.642!

2021年7月1日に Clarivate Analytics 社より最新のジャーナル・インパクトファクター (JIF) が発表され、本学会の公式英文誌 "Journal of Prosthodontic Research (JPR)" の 2020 年 JIF 値は「4.642」となりました。昨年の JIF 値 (2.662) からの大躍進です。JPR は補綴歯科における世界的なトップジャーナルに留まらず、歯学分野全体でもベスト 25% の地位 (Q1) を 5 年連続で維持しています。主な補綴歯科関連国際雑誌の 2020 年 JIF は以下の通りでした。

Journal of Prosthodontic Research (JIF: 4.642)
Journal of Oral Rehabilitation (JIF: 3.837)
Journal of Prosthetic Dentistry (JIF: 3.426)
Gerodontology (JIF: 2.980)
Journal of Prosthodontics (JIF: 2.752)
Journal of Advanced Prosthodontics (JIF: 1.904)
International Journal of Prosthodontics (JIF: 1.681)

なお、JPR は 2021 年から完全なオープンジャーナルとなり、全ての掲載論文が以下の J-Stage ウェブサイトから自由に読めるようになりました。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpr/chart/ja>



また、昨今のグリーン社会、カーボンニュートラルの実現に向けた流れから、JPR 編集委員会では、冊子の製本部数をできるだけ減らしていく方向性を検討しております。

今後ますます JPR が本学会のグローバルなプレゼンス向上に貢献するよう、会員の皆様と一緒に育ててまいります。

JPR のさらなる発展に向け、これからもご協力の程よろしくお申し上げます。

(JPR 編集委員会 委員長 江草 宏)